

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策【3】 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1) 2) 3)】

- ・令和2年4月から、すべての社協区事務所に日常生活圏域コーディネーターを配置
- ・各地域において取り組んでおられる福祉活動や今後取り組みたいという活動を支援



※日常生活圏域コーディネーターによる活動支援の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援に関するプロジェクト数	286件	275件	214件	209件 (※)

※令和5年10月末時点

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

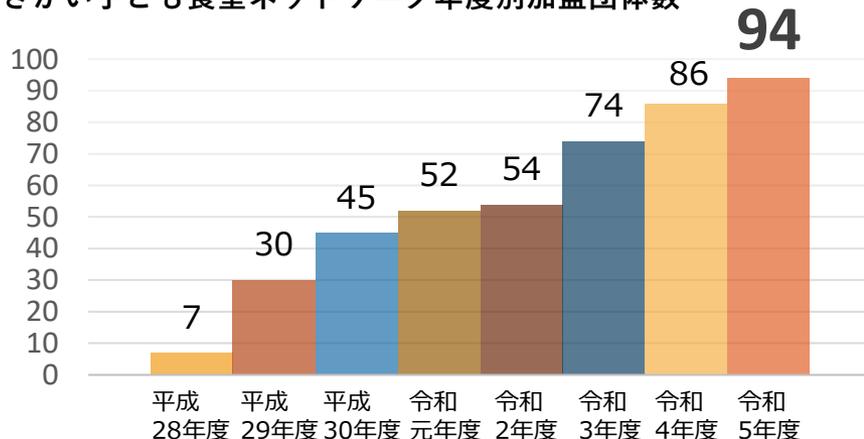
取り組む方向性 2 つながりをつくる

○さかい子ども食堂ネットワーク【取組1) 2) 3)】

市内の子ども食堂の輪を広げていくことを目的として、子ども食堂を実施する団体間の交流や情報共有、人材や食材のマッチングなどの支援を実施。

昨今のコロナ禍においても団体数は年々増加している。また、企業や団体、個人からの応援が多数寄せられており、多様な主体との協働や多様な人の参加が促進されている。

さかい子ども食堂ネットワーク年度別加盟団体数



さかい子ども食堂円卓会議

(年3回)

子ども食堂の実践者や応援している企業などが集まってつながる場

〈令和4年度〉

第16回 7月7日 約90名

第17回 11月29日 約80名

第18回 3月6日 約70名



令和4年度 寄附実績

寄附等のマッチング

マッチング 新規相談件数：137件

常設型フードドライブ

290件 5,448個 約4.1t



- ・さかい子ども食堂ネットワーク加盟 94団体(令和5年10月末時点)
- ・子ども食堂の小学校区別充足率64.1%
(子ども食堂が1つでもある校区 59/92小学校区)

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)① 2)①】

コロナ禍における脳トレプリント等を活用した認知症予防の取り組み（全市展開）

コロナ禍での高齢者の閉じこもり予防のため、脳トレプリントを活用した小人数、短時間で密を避けて集うサロンの取組を展開。令和2年度に東区から始まり、令和3年度は、全市的に展開。校区福祉委員会や自主活動グループを中心に普及した。



支援・調整

- 脳トレプリントや広報物を作成し提供。
- 授産活動支援センターを通じて堺市内の障害者授産施設より記念品を調達し提供。

各団体が実施

- ① 高齢者へお元気ですか訪問活動等で脳トレプリントとスタンプカードを配布。
- ② 自宅で取組んでもらう。
- ③ 月1回会館等に来てもらい、スタンプを押印。
- ④ スタンプを貯めた方へ記念品を贈呈。

効果

- 211団体4,197人が実施（令和3年度）
- 自宅で脳トレの機会創出
- 外出し短時間の交流の機会創出
- 障害者授産施設の作業機会や売上に貢献

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)② 2)① 3)②】

手入れが必要な農地・畑作業の応援隊PJ(東区域)

東区では、引きこもりや疾患等様々な理由で社会関係のつながりが少ない方が参加できる場づくりと、農地・畑作業を行っている住民で高齢等の理由で農地の維持が困難になってきている方への支援をめざして本プロジェクトを実施している。

現在は、理解のある農家さんの協力によりモデル的に活動を実施。地域包括支援センターからの相談で若年性認知症の方の参加を支援するなどの事例を積み上げている。

今後、協力農家さんを増やしつつ、維持困難な農地へもアプローチしていく。



基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)② 2)①② 3)①】

第1層協議体：令和4年度さかい地域応援プロジェクト会議の実施

「子どもから高齢者まで充実した暮らしができる堺」にすることを目的に、第1層協議体として、さかい地域応援プロジェクト会議を開催。

令和4年度は、「多様な主体で理想の地域づくり～福祉・文化・企業3つの視点から～」をテーマに開催。

さまざまなアイデアや取組を多様なメンバーで共有し、持続可能な活動のアイデアを一緒に考え、一步を踏み出すきっかけになる場となった。

日時：令和5年2月20日（火）13:30～15:30

参加者：約60人

プログラム：話題提供

- ①小規模多機能ホームりどけあ
 - ②公益財団法人堺市文化振興財団
 - ③株式会社まころ企画「HONBAKO」
- 意見交流

アドバイザー：桃山学院大学 社会学部
教授 小野達也 氏



基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○企業による校区福祉委員会へのプログラム支援（堺市全域）
【取組1)③ 2)③ 3)②】

多様な主体との連携を推進するため、社会貢献をしたい企業と、活動の負担感やコロナ禍で中断した活動の再開に悩む校区福祉委員会の橋渡しを第1層生活支援コーディネーターが実施。令和4年度、校区福祉委員会が実施する集える場において企業の強みをいかしたプログラムが新たに2社、計28カ所30回681人に対して実施された。

花王カスタマーマーケティング株式会社

<花王いきいき講座>

・実績：10カ所、12回、275人

【講座内訳】

- ・くらしの簡単キレイ講座 5回
- ・いきいきメイク講座（大人メイク） 7回



資生堂ジャパン株式会社

<資生堂アクティブシニア講座>

・実績：18カ所、18回、406人

【講座内訳】

- ・すっきり頭皮ケアコース 8回
- ・うるおうハンドケアコース 10回



基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1) 2)①】

誰もが気楽に参加できる場 楽ボラの取組（西区域）

西区では、ボランティアに関心がある人に加え、ひきこもりや疾患など様々な事情で社会とのつながりが難しかった人など、若者から高齢者まで誰もが気楽に参加できる「楽ボラ～ハンドクラフト～」 「楽ボラ～イブニング～」を定期的開催。ハンドクラフトでは、作品を作りながら交流し、作品は社会貢献に活用している。イブニングでは、公共施設の清掃と参加者同士の交流を行っている。

効果

- ・様々な人の社会参加の場となっている。
- ・参加者が講師になることもあり、受け手と支え手の関係を越える場となっている。



ハンドクラフトの様子



イブニングの様子 公共施設の清掃（左）と交流会（右）